

時間がない!

知識も
ない!!

それでも国試にや
受かりたい!!

国試対策
最終奥義

国試 「捨てる!技術」

1 合格への最短距離を見つける!

2 QBのコストパフォーマンスを見極める!

3 捨てる技術 ~メリハリの効いた学習を~



ここまでの特集は、普通に勉強してきた人のための直前対策でした。

でも皆さんの中には、「いままでほとんど勉強してない!」、「学校の成績も悪い!」、「クエスチョン・バンクなんてまだ何もやってないよ!」という人もいるのではないのでしょうか。

でも、大丈夫。結論から言うと、まだ全然間に合うんです。

ここでは、これから対策を始める人たちが限られた時間の中で合格をつかむ方法を、数年前にメディックメディアでアルバイトをしていたセンパイKさんの証言をもとにお伝えします。

Kさん

無所属
新人



大学医学部入学後に某難関国家試験受験を決意。医学部に在籍しながらも、二足のわらじで学生生活を送る。念願の難関資格試験を無事突破した後、その年の医師国試も一発で合格した。物事は合理的に「仕分け」ないと気が済まないタチ。

1 合格への最短距離を見つける!

Kさんの証言 その1

僕は医学部に入ってから別にやりたいことができてしまい、某難関試験突破を第一目標にしながら学生生活を送りました。別の試験の勉強をしながらだったので医学の勉強には身が入らず、**ほとんど国試の対策をすることなく6年生の秋を迎えたんです。**

10月が終わった時点で、QBは内分泌の一般問題にやっとたどり着いた程度でした。このまま漠然とQBを進めていても到底本番に間に合わない。でも最低限の対策として、**合格ラインが8割と高い必修問題はQB必修で徹底的にやらなきゃいけないし、直前3回分の『国試問題解説』も実践対策に必須。**ではQB本体をどうしようか……

こりゃ、**何科目か捨てるしかないな**と腹を決めたんです。「コストパフォーマンス」のいい科目は集中的に対策して、そうでないものはキッパリ切る。最小限の労力で最大限の効果が出る方法を考えました。

『QB必修』で
必修対策

+

過去3回分の『回数別』
で実践対策

+

クエスチョン・バンク

QB

ここでのキーワードは「コストパフォーマンス」(以下、CP)。コストとは勉強に費やす時間のことを指します。いかに得点効果の高い科目を見つけ、短時間で徹底的に勉強し、そうでない科目を切るか。それはいわば合格への最短距離を見つける方法。Kさんはこの方法でなんと、某難関試験と医師国家試験を両方突破したのです。

2 QBのコストパフォーマンスを見極める!

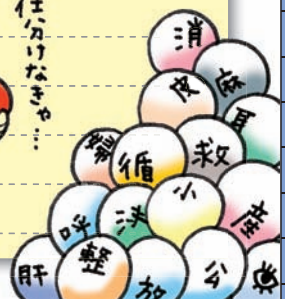
Kさんの証言 その2

何科目か捨てる、といっても**好き嫌いで捨てていったらジ・エンド**です。QBには巻頭に「分野別国試出題数表」というのがあったので、これを見て近年よく出ている科目を調べました。QBが分厚い「循環器」や「小児科」は、出題数も多いからやらなきゃマズい。「公衆衛生」もですね。逆に「**中毒**」や「**麻酔科**」、「**放射線科**」はほとんど出ていない。捨てる第一選択です。

でも例外もあって、「血液」や「婦人科」はQBの厚さの割に出題問題数が少ない。こういったCPの悪い科目も捨てる候補にしました。



は分けなきゃ……



さてここで、これらの証言を裏付けるデータを用意しました。

■ QBのコストパフォーマンス (CP)

vol.	章	分野	クエスチョン・バンク2018		近年5回 (107~111回)			QCP	
			QB2018 掲載問題数	QB2018 ページ数	総出題数	平均出題数	割合	掲載問題数から見たCP 【QCP-Q】	ページ数から見たCP 【QCP-P】
1	A	消化管	353	464	134	26.8	5.4%	7.59	5.78
	B	肝胆膵	294	354	73	14.6	2.9%	4.97	4.12
	C	循環器	420	584	167	33.4	6.7%	7.95	5.72
2	D	代謝・内分泌	349	376	116	23.2	4.6%	6.65	6.17
	E	腎	225	266	75	15.0	3.0%	6.67	5.64
	F	アレ膠	156	171	66	13.2	2.6%	8.46	7.72
	G	血液	254	328	83	16.6	3.3%	6.54	5.06
	H	感染症	195	274	92	18.4	3.7%	9.44	6.72
	I	呼吸器	314	424	141	28.2	5.6%	8.98	6.65
	J	神経	460	592	141	28.2	5.6%	6.13	4.76
3	K	中毒	77	65	22	4.4	0.9%	5.71	6.77
	L	救急	163	157	100	20.0	4.0%	12.27	12.74
	M	麻酔	55	57	20	4.0	0.8%	7.27	7.02
	N	医学総論	97	78	171	34.2	6.8%	35.26	43.85
	O	小児科	620	728	158	31.6	6.3%	5.10	4.34
4	P	産科	388	416	123	24.6	4.9%	6.34	5.91
	Q	婦人科・乳腺外科	273	344	74	14.8	3.0%	5.42	4.30
	R	眼科	181	202	62	12.4	2.5%	6.85	6.14
5	S	耳鼻咽喉科	187	211	66	13.2	2.6%	7.06	6.26
	T	整形外科	163	202	50	10.0	2.0%	6.14	4.95
	U	精神科	244	227	98	19.6	3.9%	8.03	8.63
	V	皮膚科	189	231	54	10.8	2.2%	5.71	4.68
	W	泌尿器科	179	187	70	14.0	2.8%	7.82	7.49
	X	放射線科	100	89	21	4.2	0.8%	4.20	4.72
	Y	公衆衛生	550	415	323	64.6	12.9%	11.75	15.57
平均値								7.71	6.72

この表は、過去5回 (107~111回) の国試における各科の平均出題数とQB各章の解説掲載問題数、ページ数をまとめたものです。この、国試の平均出題数とQBとの関係、つまり国試とQBを相対的にみたコストパフォーマンスのよさをここでは【QCP】と呼びます。さらに、この各科の過去5回分の平均出題数を、QBの掲載問題数で割って100をかけたものを【QCP-Q】とします。この数値が高ければ高いほど、その科は、QBに掲載されている問題数が少ない割に国試にたくさん出題される、つまり、勉強の効率がよいというわけです。

また、「各科の過去5回分の平均出題数をその科のQBのページ数で割った値」【QCP-P】も出してみました。この数値が高ければ高いほど、その科は、QBのページ数が少ない割に国試にたくさん出題されるというわけです。

【QCP-Q】の平均は7.71、【QCP-P】の平均は6.72です。これを基準にして見ていきましょう。

1 出題問題数の多い科目は捨てられない



証言2にもあるように【QCP】以前に、平均国試出題問題数が25題 (割合5.0%) 前後のエース科目は切れません。「消化器 (消化管、肝胆膵)」、「循環器」、「呼吸器」、「神経」…みんなが対策するメジャー科目で差がついてしまったら巻き返しはかなり厳しい。【QCP】は低いですが「小児科」も出題問題数ではエース級と言えますね。「出題数が多い科目は捨てないこと」これがまず基本です。

2 コストパフォーマンスのいい科目



では、CPがいい科目をみていきましょう。まずメジャー科目では「救急」の【QCP-Q】が目立って高いですね。「救急」の平均出題数は、エース科目の「消化管」より7問程度少ないだけですが、QBの問題掲載数は「消化管」の半分以下なので、CPがいい科目であることがわかります。また、「代謝・内分泌」を「消化管」と比較すると、「代謝・内分泌」の【QCP-P】が「消化管」より上回っています。QBが薄い割に国試によく出るので、「代謝・内分泌」の方が短い期間で効率的に得点につなげることができるオトクな科目といえるかもしれません。

次にマイナー科目。まずは「精神科」を見てください。マイナーではダントツの【QCP-P】です。ご存知の方も多いですが、いまや「精神科」は国試の最重要科目のひとつ。しっかり対策しない手はないです。他に、「泌尿器科」や「耳鼻咽喉科」も【QCP-P】が高いですね。ちなみに、マイナー科がオトクなのは、QCP以外に、出題される疾患に限られており、過去問対策で学んだ内容が問われやすい=点につながりやすい、という理由もあるんですよ（p.42～のマイナー対策を参照）。

最後に「公衆衛生」ですが、こちらも国試の大エースです。全科目中で最多の出題数なので、他のメジャー科目同様に対策しましょう（公衆衛生対策はp.32～を参照）。

※「医学総論」は“その他”的内容なので、ここでは省いています。



3 捨てる技術 ～メリハリの効いた学習を～

では最後にどの科目を切るべきなのか、Kさんに聞いてみました。

Kさんの証言 その3

結局、僕がまず捨てたのは「中毒」、「麻酔」、「放射線」という毎年5問

出るかどうかの科目。これはどう考えてもCPが悪いので思い切って捨てました。

次に「婦人科・乳腺外科」、「整形外科」も出題数とQBの厚さを見比べて、重要疾患以外はほぼ捨てています。

あとはメジャーでも「腎臓」、「アレ膠」、「血液」、「感染症」、マイナーだと「皮膚科」は他に比べて時間を掛けませんでした。点につながる科目とそうでない科目を見極めて、メリハリの効いた勉強をしたことが、成功の秘訣だったと思います。

結局このやり方でKさんは医師国試だけでなく、難関資格試験にも合格することができました。証言1のとおり、まずは①必修問題対策でQB必修を徹底的に解く。②実践対策は直前3回分の国試問題解説で演習。③出題の多いQBメジャー科目と公衆衛生は徹底的にやる。これをおさえううえで、残りのQB本体の取捨選択をしていったわけですね。「捨てる技術」を駆使して効率よく時間を使ったことで、秋からのスタートでもなんとかゴールに間に合わせる事ができたのです。

しっかり 対策	A 消化管	B 肝胆膵	C 循環器	D 内分泌	I 呼吸器
	J 神経	L 救急	N 医学総論	O 小児科	P 産科
サククリ 対策	S 耳鼻咽喉科	U 精神科	W 泌尿器科	Y 公衆衛生	V 皮膚科
	K 中毒	M 麻酔	Q 乳腺外科	R 眼科	H 感染症
捨てる科目					G 血液
					F アレルギー・ 膠原病
					E 腎臓
					T 整形外科
					X 放射線科

Kさんより後輩へのメッセージ

結局僕が後輩に伝えたかったのは、「いままでほとんど勉強してない」、「学校の成績も悪い」、「まだQBを1周解いていない」人でも、

“国試対策はまだ間に合う！”ということなんです。やり方としては邪道なのかもしれませんが、あきらめなくても一年頑張ることに比べたらマシですよ。

あきらめずに、自分の現状を把握して、冷静に優先順位を決めて勉強してください。

国試のラストスパート、悔いのないように走り切ってくださいね！